



**東区・名古屋市連携 外国語学部生が「文化のみち」の  
情報発信型 ICT の紹介  
10月26日（火）13：10、ナゴヤドーム前キャンパスで**

本学では地域の課題を自ら発見し、解決していく学びを通して社会に貢献する「学びのコミュニティ創出支援事業」を展開しています。その活動の一環として、東区及び名古屋市歴史まちづくり推進室と連携し、外国語学部1年生で、二神真美教授と西尾由里教授の基礎ゼミ生22人が、東区の「文化のみち」と中区の「名古屋城」のフィールドワークを行い地域情報の取材及び発信を通して地域貢献を行うという活動をしています。

本年度は、「文化のみち」の二葉館、豊田佐助邸などの魅力を東区へ転居された方、及び外国人の方々へ、コロナ禍という状況も加味した情報発信として、多言語でのTikTokなどの動画、AI等のコンテンツを制作し、ICTを活用したオンライン成果物をポスター発表という形で、紹介します。Z世代といわれる若者ならではの新しい発想が見られます。当日は、東区・名古屋市の担当者、東区で活躍されているボランティアガイドの皆様も参加予定です。



豊田佐助邸での学びの様子



二葉館前での学びの様子

日時	10月26日（火）13:10～14:40
場所	名城大学ナゴヤドーム前キャンパス南館1階 DS 102 〒461-0048 名古屋市東区矢田南4丁目102番9
対象	東区・名古屋市担当者、東区ボランティアガイド
内容	名城大学外国語学部の1年生が東区「文化のみち」のフィールドワークの情報収集からの学びを生かし、魅力を伝えるTikTokやAIなどのICTを活用したコンテンツを作成し、ポスター発表を行う。
問い合わせ先	名城大学外国語学部 二神真美教授 futagami@meijo-u.ac.jp
備考	東区・名古屋市との名城大学外国語学部での二神ゼミと西尾ゼミでの活動は2016年に外国語学部設立当初に始まり、本年度で6年目の活動となっている。当初は、東区で行われる「文化のみち」のイベントへの参加協力という形であったが、そののち、外国人、若者、ビジネスマンなどを対象にと「文化のみち」の魅力を行政の立場から発信するアイデアを提案するという形であった。本年度は、さらに、アイデアの提案だけでなく、ICTを使ったアイデアを形にしたコンテンツ作成を目指している。このコロナ禍、直接的な来場が困難な中、いかにも現地で体験できるような臨場感あふれる映像は、デジタルネイティブといわれるZ世代ならではのコンテンツのアイデアとなっている。